

一人ひとりに合った方法で読む練習をすることで、 読むことへの苦手さが減り、お子さんが本来持っている力を発揮しやすくなります

文字を読み分けることに苦手さがある場合

もしかして

文字と音に対応していない可能性があります。

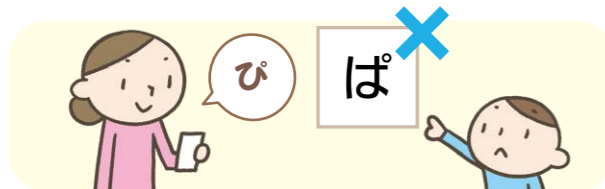
音韻処理能力を伸ばして、一つ一つの文字を読む力を伸ばしましょう！

※音韻処理能力：単語を一つ一つ音韻（意味の区別を示す音声）として分解した形で認識し、それを操作する能力



文字カードで読みの練習をしよう

1 大人が読み上げた単語が書かれた文字カードを選んでもらいましょう

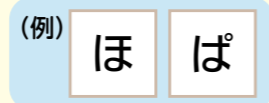


2 答え方によってカードを分けましょう

A すぐ読めた B 時間がかかる／言い直し



C 読めない／間違えて読んだ



3 B・C文字カードのみ、再度読みの練習をしましょう



4 A(すぐに読めた)のカードが増えたことが実感できるようにほめましょう



文字カードがスムーズに読めるようになれば単語に挑戦してみましょう。

ほかに

読む力を伸ばすかわりの紹介

遊びを通して、いろいろなことを見て、聞いて、体験してみましょう。興味がある本を見つけましょう！その際に言葉をイメージしやすい絵本・漫画はおすすめです。“本や文字が身近にある空間・環境づくりをしてみましょう”



文章を読むことに苦手さがある場合

もしかして

言葉のイメージが思い浮かばないために、単語のまとまりを見つけるのが苦手なのかもしれません。語い力を増やして、言葉の意味をイメージできるようにしましょう！

※語い力：単語の知識と、それを使いこなす能力

「○○」は、どういう意味？



例文づくりで言葉の意味を覚えよう

例「ゆきだるま」の単語を覚える

※最初は好きな本から。次は教科書の「知らない言葉」を選ぶのもおすすめです

1 大人が単語の読み方の見本を見せます。そして、マネをして読ませましょう



2 その単語の意味を説明しましょう



3 子ども自身の経験をもとに、例文をつくりましょう



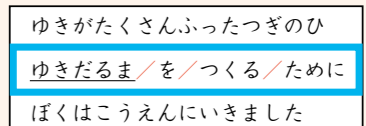
4 楽しい経験の出来事と絡めて例文をつくることで、言葉のイメージが記憶にのこりやすくなります



ほかに

言葉のまとまりを見つけやすくするサポート例

●文字に線を引く ●まとまりを斜線で区切る ●色をつける



音読指導アプリもあります

1日1回5分が目安。誤読には答えを伝えて、再度音読させましょう

音読指導アプリ for Web URL <https://www.t-ondoku.com/>



お子さんと関わる時に大切にしてほしいこと

語いが増えることで、学習面の助けになることがあります。脳の中で言葉は単独では存在していません。文章の中でよく出てくる言葉と言葉は、ネットワークでつながっています。(例 ゆきだるま、ふゆ) ネットワークが増えていくことで、使える語いが増えていきます。

